

生涯学習係 学校支援センターの一層の充実 ～地域住民との「連携・協働」を踏まえて～

これまでの学校支援センターの取組により、多くの地域住民が、学校や子どもに直接関わる機会が増え、教育活動の充実が図られています。学校支援センターの一層の充実を図るため、これから求められる「地域住民との『連携・協働』」を踏まえて、各校の学校支援活動の取組を見直してみましょう。

地域住民との「連携・協働」とは…

同じ目的や目標に向かって、対等な立場で協力して共に働く関係をいいます。

「地域とともにある学校づくり」に向けて、学習指導要領では、地域住民との「連携・協働」の関係を築き、学校・地域社会、それぞれの教育機能を十分に発揮することが求められています。

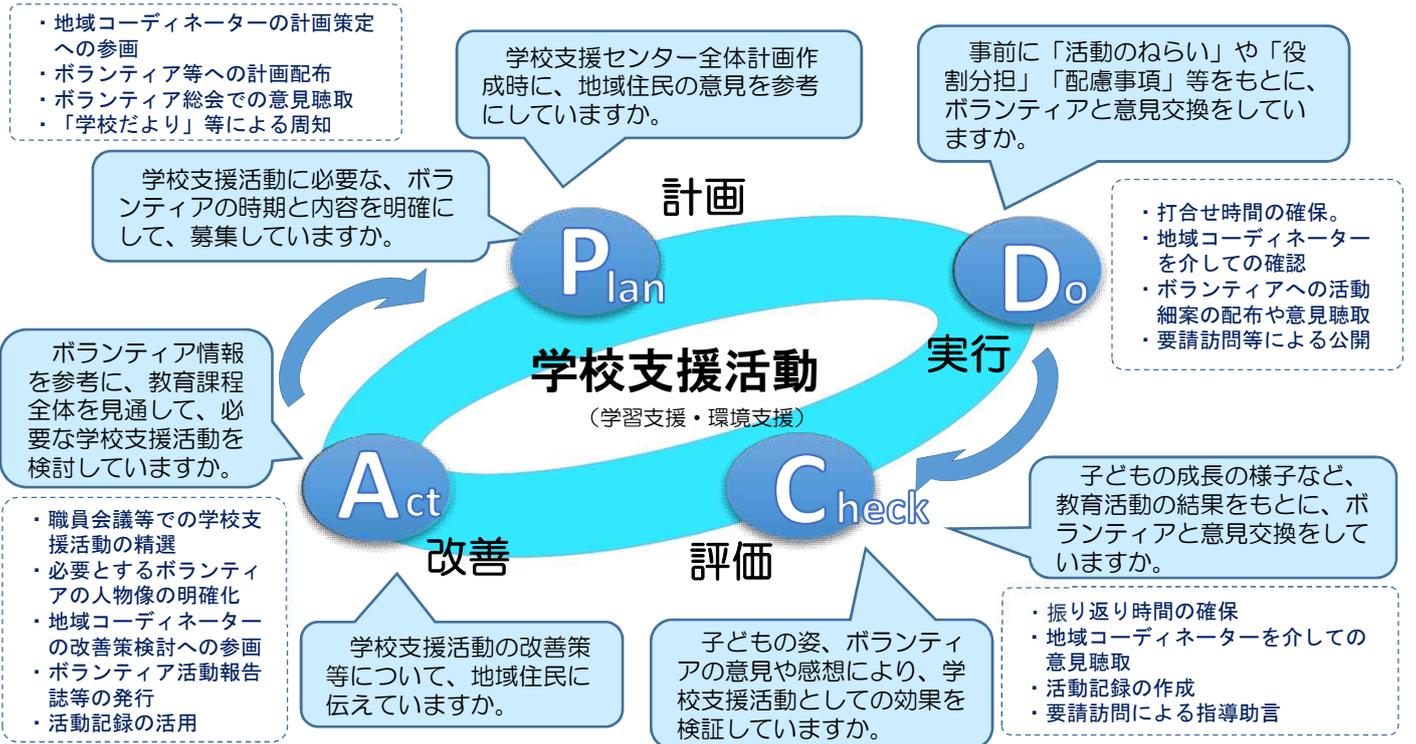
地域住民との「連携・協働」を踏まえると…

下図のように、地域住民と「子どもや学校の実態」及び「活動のねらい」等を「共有」して、相互理解を深めて学校支援活動を行うことができます。さらに、学校支援活動により、子どもの成長した姿や教育活動の効果を共有すると、地域住民は、学校支援活動への参画意識や活動意欲を高められます。



地域住民との「連携・協働」を踏まえて 学校支援活動を「計画→実行→評価→改善」のPDCAサイクルで見直しましょう。

下図は、「地域住民との『連携・協働』」を踏まえて相互理解を深める視点で、学校支援活動について、PDCAサイクルの各段階における「学校からの働きかけ」や「地域住民との取組」、「具体的な場や方法」を例示しました。



各校の学校支援活動を、地域住民との「連携・協働」を踏まえて、改めて見直してみましょう。